

平成27年度 病害虫発生予報 第6号

平成27年9月18日
栃木県農業環境指導センター

○果菜類のうどんこ病に注意しましょう。

予想期間 9月下旬～10月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量はやや少ない(平年比31%：ほ場率)。(－)
 - ・向こう1か月の日照時間は少ない見込みで発生に適している。(＋)
- (3) 対策
 - ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
 - ・現在発生が見られなくても、今後発生する可能性があるため、保温開始前からフルピカフロアブルやアフェットフロアブル等を散布する。
 - ・発生が見られたらガッテン乳剤等を散布する。

2 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量はやや少ない。(－)
 - ・向こう1か月の降水量は多い見込みで、発生に適している。(＋)
- (3) 対策
 - ・発病株は見つけ次第取り除き、ほ場外で処分する。
 - ・水滴の飛散等によって伝染するので、水の跳ね返りのないようなかん水を行う。また、茎葉のぬれ時間が長ならないよう、かん水は晴天日の午前中に行い、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。
 - ・症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にセイビーフロアブル20等を散布する。
 - ・発病株が見られたら、速やかにゲッター水和剤等を散布する。
- (4) 備考
 - ・[「イチゴ炭疽病菌のQoI剤に対する感受性検定結果」](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量はやや少ない(平年比31%：ほ場率)。(－)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並。(±)
- (3) 対策
 - ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
 - ・天敵導入を予定する場合、導入時にハダニ類が多いと失敗しやすい。定期的に気門封鎖剤などを散布し、ハダニ類の増殖を抑制する。
 - ・発生が見られたら葉裏のハダニ類を洗い流すように気門封鎖剤を約5日間隔で複数回散布する。
 - ・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
 - ・葉の傷みを防ぐため、高温時や乾きにくい雨天日の散布を避ける。
- (4) 備考
 - ・[「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

4 野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠
 - ・9月第2半旬までのフェロモントラップでの成虫誘殺数はやや多い。(＋)
 - ・向こう1か月の降水量はやや多い。(－)
- (3) 対策
 - ・定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 - ・ハスモンヨトウの幼虫は、齢期が進むと被害が大きくなる上に薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

5 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量はやや多い(平年比144%：ほ場率)。(＋)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並。(±)

- (3) 対策 ・ 薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。
 ・ 葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やマイトコーネフロアブル等を散布する。
- (4) 備考 ・ [「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

6 その他の病害虫

		現況	発生予想			現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	やや少	やや少	きゅうり	うどんこ病	平年並	やや多
なす	タバコガ類	やや多	やや多	ねぎ	黒斑病	平年並	やや多
	うどんこ病	平年並	やや多	レタス	タバコガ類	—	やや多
きゅうり	べと病	やや多	多				

○水稲の縞葉枯病の拡大を防ぎましょう

・縞葉枯病が発生したほ場の再生稲（ひこばえ）は媒介虫のヒメトビウンカの増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源となります。早期の丁寧な耕起により次年産の本病拡大を防ぎましょう。

○トマト黄化葉巻病（TYLCV）

・TYLCVはタバココナジラミによって媒介され、冬春トマトで発生が多く見られています。媒介虫や感染源となる罹病植物を施設内に「入れない」対策の徹底が重要です。

※[植防ニュース（速報No.9）「施設に入れえない対策」](#)を徹底し、[トマト黄化葉巻病を防ぎましょう！](#)参照。

○いちごのアザミウマ類

・頂花房の開花が10月上旬以前から見られる施設では、秋からアザミウマ類が発生しやすく、翌年の発生も早くなる傾向にあるため、注意が必要です。

○ナシ黒星病（秋季防除）

・病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行い、園内外の落葉を集めて適切に処分しましょう。防除の際は周辺へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意しましょう。

※[植防ニュース（速報No.10）「ナシ黒星病の秋季防除を徹底し、翌年に備えましょう！」](#)参照。

○冠水や浸水等を受けたほ場は、病害が発生する可能性があるため注意しましょう。

1か月気象予報（予報期間9月12日から10月11日 9月10日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	30%	40%	30%
○降水量	20%	40%	40%
○日照時間	40%	40%	20%

NEWS & INFORMATION

★短期暴露評価の導入に伴う農薬の使用方法の変更に注意して下さい！

☆「栃木県農薬管理指導士」養成研修（12月1日、2日）・更新研修（12月1日）が開催されます。申込期間が10月5日～11月6日となりますので、特に更新対象者の方はお忘れなく申込みください。詳しくは農政部経営技術課環境保全型農業担当までお問い合わせください。

Tel(028)623-2286

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ <http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html> でもご覧になれます。